

⑩50.0%イミダクロプリド顆粒水和剤（つづき）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ	5000～ 10000倍	200～400 L/10a	摘採7日前まで	1回	散布	1回
	ツマグロアオカスミカメ	5000倍					
小麦	アブラムシ類	15000倍	60～150 L/10a	収穫21日前 まで	2回以内		3回以内 (種子粉衣は 1回以内、 散布は2回以内)
アテモヤ	コカゲムシ類	10000倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで			2回以内
かぼちゃ	アブラムシ類		100～300 L/10a	収穫前日 まで			3回以内 (定植時の土壌 混和は1回以内、 散布は2回以内)
アスパラガス	アザミウマ類		5000倍			2回以内	

⑩50.0%イミダクロプリド顆粒水和剤（つづき）

作物名	作物名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
乾田直 播水稻	ウンカ類	種もみ4～8kg 当り 30～40g/10a	は種前	1回	種子塗沫 (未催芽粉)	3回以内 (種もみへの処理 は1回以内、 本田での散布 は2回以内)
湛水直 播水稻		種もみ3kg当り 30～40g/10a			過酸化カルシウム剤 との同時湿粉衣(地 上は種用、空中散播 及び無人ヘリコプタ ーによる散播用)	

⑪4.0%イミダクロプリド顆粒水和剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	500g/10a	移植時	1回	ペースト肥料 に溶かし側条 施肥田植機で 施用する。	3回以内 (種もみへの処理 は1回以内、育苗 箱への処理及び側 条施用は合計1回 以内、本田での散 布は2回以内)	2回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は合 計1回以内)

⑫0.0050%イミダクロプリド液剤

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類	原液	収穫7日前まで	2回以内	希釈せず そのまま 散布する	3回以内 (育苗トレイへの灌注及び定植時の土壌混和は1回以内、散布後は2回以内)
レタス						3回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
非結球レタス			2回以内			
ほうれんそう						
きゅうり	収穫前日まで		3回以内	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び常温煙霧は合計3回以内)		
トマト			2回以内	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)		
しそ	アブラムシ類	収穫7日前まで	1回	1回		

(2) 海外における使用方法

イミダクロプリド 17.4%フロアブル

作物名	1回当たりの使用量	本剤の使用回数	栽培期間中の総使用量	使用時期	使用方法
コーヒー豆	8.0 fl oz (製剤)/A (0.10 lb ai/A = 0.112 kg ai/ha)	5回 (*) [最大 0.50 lb ai/A]	0.50 lb ai/A (0.56 kg ai/ha)	収穫7日前まで	茎葉散布

6. 作物残留試験

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

イミダクロプリド

② 分析法の概要

試料を含水アセトニトリルで抽出し減圧濃縮後、塩化ナトリウム溶液及びヘキサンを加えて振とうする。水層にジクロロメタンを加えて転溶後、ジクロロメタン層を炭酸カリウム溶液で洗浄し、濃縮後、シリカゲルカラムで精製し、高速液体クロマトグラフで定量する。

このほか、ジクロロメタン転溶を行わず、珪藻土カラム及びシリカゲルカラム等による精製の後、高速液体クロマトグラフ (UV検出器) で定量する方法や、抽出後、グラファイトカーボンミニカラムによる精製の後、LC-MSを用いて定量する方法も用いられる。

検出限界 0.005~0.2ppm

(2) 作物残留試験結果

① 稲

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2例) において、2%粒剤を1回箱施用 (80g/箱) し、施用後133, 111日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : <0.005、<0.005 ppm

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2例) において、2%粒剤を1回箱施用 (80g/箱) し、施用後133, 111日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.01、0.03 ppm

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2例) において、2%粒剤を1回箱施用 (80g/箱) し、1%粒剤を1回散布 (4kg/10a) したところ、散布後88, 66日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。
注2)

イミダクロプリド : <0.005、<0.005 ppm

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2例) において、2%粒剤を1回箱施用 (80g/箱) し、1%粒剤を1回散布 (4kg/10a) したところ、散布後88, 66日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.01、0.04 ppm

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2例) において、2%粒剤を1回箱施用 (80g/箱) し、0.25%粉剤を2回散布 (4kg/10a) したところ、散布後21~28日の最大残留

量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.038、0.018 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、0.25%粉剤を2回散布（4kg/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.40、0.32 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、1%粒剤を2回水面施用（3kg/10a）したところ、施用後80、70日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.005、0.006 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、1%粒剤を2回水面施用（3kg/10a）したところ、施用後80、70日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、0.06 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（120、150L/10a）したところ、散布後28～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.058、0.036 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（120、150L/10a）したところ、散布後28～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18、0.24 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.076、0.030 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.22、0.28 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後28～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08、0.02 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の50倍希釈液を1回灌注（0.5L/箱）し、2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後28～45日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.04、0.04 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（1例）において、10%水和剤を1回施用（200g/種子3kg）し、2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤を1回施用（200g/種子3kg）し、2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後28～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16、0.09 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、20%顆粒水和剤の50倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）したところ、灌注後120日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、20%顆粒水和剤の50倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）したところ、灌注後120日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.02、<0.02 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、20%顆粒水和剤の50倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後27～43日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.05、0.03 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、20%顆粒水和剤の50倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布

(150L/10a) したところ、散布後27～43日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.08、0.02 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.22、0.31 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：3.39、1.38 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の125倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）し、5,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～29日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.26、0.28 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の125倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）し、5,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～29日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：2.96、1.36 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回移植当日に箱施用（80g/箱）し、1%粒剤を2回散布（3kg/10a）したところ、散布後35～56日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.02、0.02 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回移植当日に箱施用（80g/箱）し、1%粒剤を2回散布（3kg/10a）したところ、散布後35～56日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.56、0.12 ppm

②小麦

小麦（玄麦）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤を1回は種前に

塗抹処理（種子重量の0.15%）し、50%顆粒水和剤の15000倍希釈液を2回散布（200、150L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、200L/10aを散布した試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.013、<0.005 ppm

小麦（玄麦）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤を1回は種前に塗抹処理（種子重量の0.15%）し、50%顆粒水和剤の10000倍希釈液を2回散布（200、150L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.016、<0.005 ppm

③とうもろこし

とうもろこし（乾燥種子）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルを1回種子塗抹（100cc/種子3kg）し、2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

とうもろこし（生食用子実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルを1回種子塗抹（100cc/種子3kg）し、2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

とうもろこし（脱穀した種子）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルを1回播種時種子塗抹（100mL/種子3kg）し、60倍希釈液を2回無人ヘリコプター散布（3L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

とうもろこし（生食用子実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルを1回播種時種子塗抹（100mL/種子3kg）し、60倍希釈液を2回無人ヘリコプター散布（3L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

④だいず

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝処理（3kg/10a）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後28～42日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、こ

これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.01、<0.01 ppm

⑤あずき

あずき（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝土壌混和（4kg/10a）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.05、0.04 ppm

⑥らっかせい

らっかせい（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝土壌混和（3kg/10a）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後28～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.05、<0.05 ppm

⑦ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回種いも処理（100g/水1L/いも200kg）し、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.186、0.020 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時植溝処理（4kg/10a）し、10%水和剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.02、0.02 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の15倍希釈液を2回空中散布（3L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02、<0.02 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02、<0.02 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回植付時植溝土壌混和（4kg/10a）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.02、<0.01 ppm

⑧さといも

さといも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、20%水和剤の4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

⑨かんしょ

かんしょ（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

かんしょ（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を1回株元土壌灌注（800L/10a）した後、2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.01、<0.01 ppm

⑩やまのいも

やまのいも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

やまのいも（むかご）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回植付時植溝土壌混和（4kg/10a）したところ、処理後210、140日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06、<0.05 ppm

⑪こんにやくいも

こんにやくいも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回培土時土壌混和（6kg/10a）した後、1回散布（6kg/10a）したところ、散布後21～30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内

で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、0.02 ppm

⑫てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤を1回移植時、苗箱灌注処理（100g/6L/6冊/10a）し、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%粉末を1回種子にコーティング（130g/ユニット）し、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の300倍希釈液を1回灌注（1L/冊）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

⑬だいこん

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝土壌混和（6kg/10a）したところ、散布後42～67日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.014、0.011 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝土壌混和（6kg/10a）したところ、混和後42～67日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.013、0.022 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝土壌混和（6kg/10a）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時

播溝土壌混和 (6kg/10a) し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後14~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.20、0.01 ppm

⑭はくさい

はくさい (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.06、0.11 ppm

はくさい (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.06、0.06 ppm

はくさい (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、1%粒剤を定植時土壌混和 (1g/株) し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布 (200, 230.4 L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.05、0.13 ppm

⑮キャベツ

キャベツ (葉球) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.04、0.21 ppm

キャベツ (葉球) を用いた作物残留試験 (1例) において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.02 ppm

キャベツ (葉球) を用いた作物残留試験 (2例) において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和 (0.5g/株) し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布 (300L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.16、0.05 ppm

キャベツ (葉球) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの200

倍希釈液を定植時苗灌注 (0.5L/トレイ) した後、2,000倍希釈液を2回散布 (300L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.20、0.07 ppm

⑯芽キャベツ

芽キャベツ (芽球) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : <0.2、<0.2 ppm

⑰みずな

みずな (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布 (200L/10a) したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 1.36、2.39 ppm

みずな (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 1.30、2.20 ppm

⑱ブロッコリー

ブロッコリー (花蕾) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの50倍希釈液を定植前苗灌注処理 (0.25L/トレイ) し、1%粒剤を定植時植穴土壌混和 (0.5g/株) し、20%フロアブルの2000倍液を2回散布 (150L、300L/10a) したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.28、1.94 ppm

ブロッコリー (花蕾) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの2000倍液を2回散布 (150L、300L/10a) したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.40、2.30 ppm

⑲非結球芽キャベツ

非結球芽キャベツ (本葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.2、<0.2 ppm

非結球芽キャベツ（えき芽葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.5、<0.2 ppm

⑩畑わさび

畑わさび（葉柄＋根茎）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04 ppm

畑わさび（葉＋葉柄＋根茎）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.25 ppm

畑わさび（葉＋葉柄＋根茎）を用いた作物残留試験（3例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.38、0.38、0.75 ppm

⑪わさび

わさび（花及び花茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.30、0.74 ppm

わさび（葉及び葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.37、0.27 ppm

わさび（根及び根茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.20、0.06 ppm

㊸なばな

なばな（花茎）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（250L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.61、0.46 ppm

㊹ごぼう

ごぼう（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

㊺レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（105～150, 200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.08、0.10 ppm

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（105～150, 200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.09、0.08 ppm

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（0.5g/株）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200, 230L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.46、0.17 ppm

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの200倍希釈液を定植時苗灌注（0.5L/トレイ）した後、4,000倍希釈液を2回散布（200, 230L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.47、0.19 ppm

㊻サラダ菜

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.4、0.2 ppm

⑳リーフレタス

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.8、0.2 ppm

㉑エンダイブ

エンダイブ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200、303～560.6 L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、303～560.6 L/10a散布された試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：2.26、2.21 ppm

㉒食用ぎく

食用ぎく（花卉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布（250～300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.67、0.22 ppm

食用ぎく（花卉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（250～300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.72、0.44 ppm

㉓きく

きく（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.29、0.22 ppm

㉔ふき

ふき（茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.12、0.08 ppm

㉕葉ごぼう

葉ごぼう（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.60、1.14 ppm

⑳ すいぜんじな

すいぜんじな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.4、2.6 ppm

㉑ たまねぎ

たまねぎ（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

たまねぎ（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

㉒ 根深ねぎ

根深ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16、<0.01 ppm

㉓ 葉ねぎ

葉ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、0.22 ppm

㉔ いら

いら（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）した後、1回散布（4kg/10a）したところ、散布後30～60日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.4、<0.4 ppm

㉕ アスパラガス

アスパラガス（若茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブ

ルの2000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.14、0.30 ppm

③⑧わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.7、1.0 ppm

③⑨にんじん

にんじん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200、300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、0.02 ppm

④⑩パセリ

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（0.5g/株）したところ、処理後50～75日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16 ppm

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（0.5g/株）したところ、処理後49～75日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.36 ppm

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（0.5g/株）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、処理後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.4、1.3 ppm

④⑪セルリー

セルリー（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.30、0.68 ppm

④⑫みつば

みつば（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（150, 200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.77、2.50 ppm

④はまぼうふう

はまぼうふう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18、0.10 ppm

④トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験（3例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、0.12、0.14 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.15 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（250、